

神楽名

おし かた ご か むら 押方五ヶ村神楽

伝承地

押方五ヶ村地区
高千穂町大字押方

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

押方五ヶ村神楽保存会
代表 藤崎 康隆



御神体

◆ 神楽の概要・由来・その他

押方五ヶ村地区は、国見ヶ丘の西側麓に位置する五ヶ村東公民館区と、西北に延びる県道203号土生高千穂線沿いの五ヶ村西公民館区で構成されている。中畑神社は神武天皇の第二皇子である神八井耳命の第六子、健磐龍尊を祭神とする阿蘇神社の外宮である。健磐龍尊が高千穂を経て阿蘇に向かわれる途中、この地から高千穂・阿蘇の国見をされたとの伝説により国見ヶ丘の名が付いた。中畑神社は健磐龍尊が行在所として留まれた跡に建立されたと伝えられ、現在の社殿は天保11年(1840)に再建、本殿向拝両柱の昇龍と降龍をはじめ多彩な彫刻が施されている。国見ヶ丘は古くは地蔵原といわれ、南側には中畑神社遥拝宮と、地蔵尊の祠がある。

押方五ヶ村神楽は、集落溪谷の対岸に位置する上野下組・黒口集落との交流により、上野・田原系神楽として伝承されている。上野・田原系の神庭の特徴として彫り物は、東に木・南に火・西に金・北に土を配し、水は「雲」と呼ばれる天蓋に配する。

◆ 芸能の機会・場所

- 押方五ヶ村夜神楽... 中畑神社にて神事後、五ヶ村西活性化センターにて11月中旬の土、日曜日奉納

◆ 演目一覧

宮神楽	道神楽	神楽宿神事	御小屋誉め	彦舞	太伊殿
鎮守	神凧	杉登	沖逢	幣神添	地固
武智	本花	七貴神	御柴	八鉢	御神体
岩潜り	地割	住吉	五穀	柴引	伊勢神楽
手力男命	鈿女命	戸取	舞開	繰りおろし 繰下(前半)	注連口
繰下(後半)	雲下				

※平成29年11月に奉納された演目に基づく

❖ 演目の特徴

前半は、祓い清めの舞や諸々の神を招く舞が続く。神の依代である御幣の威徳を讃える「幣神添^{かんぜ}」では「あばれ荒神」と称される入鬼神が途中で舞込み、舞手がからみ笑いを誘う。侵入した障神を御幣の威徳で祓う舞である。柴輿^{しばこし}に荒神を乗せ外注連^{そとじめ}を3廻りし神楽宿に入る「御柴^{おんしば}」は、本来朝日が昇ってから行う演目であったが、現在は伝承の為、柴輿を担ぐ消防団の者が多い夜中の時間帯に行われる。夜明けには岩戸開きの神話にちなんだ「岩戸五番」（「柴引」「伊勢」「手力男」「鈿女」「戸取」「舞開」の六番）が奉納される。「繰下^{くりおろし}」では四人の舞手が各々道綱（みどりの糸）を手に見物客を追い、外注連ごと巻き込む伝統がある。

❖ その他の特徴

- 面... 中畑大明神、猿田彦大神、御神体、手力男、鈿女、獅子面 等
- 楽... 太鼓、笛、ガタ
- 装束... 白衣、白袴、素襖^{すおう}、千早、裁着袴^{たっつけはかま}、襷、鉢巻、毛笠、毛頭、烏帽子^{えぼし} 等
- 採り物... 鈴、扇、御幣、面棒（荒神杖等）、刀、弓、矢、榊枝、襷帯、桶、竹ざる、藁苞^{わらづと}、折敷^{おしき} 等
- 文書... 大正14年の文書「御神楽諸大書」、巻物「神代御神楽記録」（上野神社の署名あり） 等

❖ 伝承の現状・課題

神楽祝子^{ほうししや}者は約20名で、夜神楽は五ヶ村東公民館区集落と西公民館区3集落の計4つの集落の廻し当番で行われている。平成30年は大内地区の当番。大内地区は東と西の小组で分かれており、各小组に元締と会計がいる。保存会メンバーも充実し年代も幅広いが、地区自体が限界集落に近づいており、祭りをを行う者が少なくなっている。



道行



七貴神



戸取り